北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（小樽開発建設部）

国土交通省

「漁港を活用したインフラツーリズムモニターツアーの取組」

【具体的な取組内容】

小樽開発建設部の関わり

➢ **小樽開発建設部では、地域と協働したモデルツアーの造成を検討した。**

- 地域の意向を聞いた小樽開発建設部では、「鮭」と鮭が水揚げされるインフラ「漁港」をテーマにモデルツアーの素案を企画した。その後、開発局（本局・小樽開発建設部）、自治体、地域の関係者、旅行会社参画のワーキングを開催し、企画段階から、関係者と意見交換を重ね、さらに、旅行会社の知見を聞きつつ企画を磨き上げ、「鮭さばき体験」と「いくら醤油漬け見学」というツアーメニューを企画した。
- 地域にとっての「ふつう」は、観光客には「とくべつ」であると捉え、普段のままの地域の姿を見てもらいつつ、漁港から食卓までの「鮭の物語」というテーマを設けることで、ストーリーに一貫性を持たせて楽しめるようにした。
- 令和４年度は、情報発信を強化すべく、Facebook「インフラツーリズム北海道」を活用し、ツアーが募集開始段階での投稿、ツアー催行後には、ツアーの内容を紹介する投稿を行うこととした。

主なツアー内容と観光コンテンツは、下記の通り。

ツアー内容

- 地元出身学生によるガイド（車内）
- 鮭捌き体験
- 協力隊員のガイドによる街歩き
- 市街地商店での買い物（珍味店）
- 古宇川での鮭遡上見学 等

観光コンテンツ

- 鮭を用いた特製弁当
- 漁組職員によるお魚講座（旬・食べ方等）
- 協力隊員による食後のデザート、紙芝居鑑賞
- 漁港課長による漁獲方法、漁港の役割の説明
- 地元の道の駅、漁組直売所等での買い物 等

▼地域の方との意見交換から生まれた様々なツアー内容と観光コンテンツ

地元出身学生によるガイド（車内）

サケさばき指導（古宇郡漁協女性部）

街歩き（厳島神社）

市街地商店でお買い物（珍味店）

2人１組でサケさばき体験

協力隊員のガイドで街歩きスタート

古宇川でサケ遡上見学

遡上するサケ

きのえ荘女将による特製弁当（神恵内のサケを中心に後志の食材使用）

築港課長による漁獲方法（サケ・ブリ定置網）説明（車中）

協力隊員による食後のデザート（自家焙煎コーヒーとパウンドケーキ）

築港課長による漁港の役割等説明（古平漁港）

食後のデザートを食べながら協力隊員による紙芝居鑑賞

東しゃこたん漁組職員によるお魚講座（旬・食べ方等）

皆さんでお見送り！

お買い物（道の駅オスコイ神恵内）

加工場見学（東しゃこたん漁組）

お買い物（東しゃこたん漁組直売所）

北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（小樽開発建設部）

国土交通省

「漁港を活用したインフラツーリズムモニターツアーの取組」

【取組の効果】

興味深いコンテンツを活用したインフラへの理解促進

- インフラ施設（古平漁港）について、ダムやトンネルのような施設そのものを観光資源としたのではなく、食（水産物）と関連させたことにより、参加者から「漁港の役割や施設の目的がよくわかった」など、インフラが地域経済や普段の食生活を支えていることを実感いただけた。

持続可能な稼ぐ観光の実現

- これまで鮭捌き体験指導や地元ガイドは、村に来ていただくための「ボランティア」的な位置づけであったが、「持続可能な稼げる観光」を目指し、担い手がいない中で継続して観光メニューを確立するため、「指導料」を徴収することで指導者確保を狙った。昼食・体験・物販等の個別メニュー自体を収益化でき、地域全体に収益が見込めるツアーとなった。

地域における関係者の声

- ツアーガイドとしての同行では、色々なことを喋ることができ、お客様に頷きながら話を聞いてもらっているのが伝わってきたので話しやすかった。本ツアー後、高校生の修学旅行にも同行したが、**様々な方が関わってツアーが作られているというのが分かって良かった。**
- 次の機会があれば、またツアーに同行したい。**観光客は、地域の人との関わりを求めている。**ツアー数を増やしながら、量産して、地元の方々自身も経験を積みつつ新たなツアーを作っていければ良いと思った。
- 今後、観光業に関わっていきたい。各コンテンツの良いところを少しずつピックアップすることや、**宿泊施設とのタイアップなどもうまくできれば良い。宿泊と絡めて地域に滞在してもらう仕組みも面白いと思う。**
- **サケさばき体験では、皆様に喜んでもらえて本当に嬉しかった。**
- **ウニ剥き体験など、時期にもよるが、様々なものを検討・提案したい。港内の鮭の稚魚見学、加工場での魚の作り方の紹介なども可能である。**
- **地域のファンを作っていくのが大事だと思う。**ファンづくりという地域との関係性を築いていくことが、リピータ獲得のためには重要である。

【今後の方向性】

- 対応要員を確保するためには、民間事業者、NPO、ボランティア等と連携してガイドしてもらう外部ガイドの活用が考えられる。
- 外部の方にガイドをしてもらうためには、マニュアル整備が必要となる。このため、既存の施設説明資料に加え、地域の歴史、産業、周辺の見どころ等を盛り込んだガイドマニュアルを作成することとした。現在、まだ作成途中であるが、完成後には、実際のガイドの場で活用し、さらにマニュアルを磨き上げていきたい。
- 見学可能な施設やモデルコース等を一覧で視認できるツールとして、ガイドブックが有効である。今後、ツアーを企画する旅行会社への紹介にも活用できるようなガイドブックを作成することを検討している。
- 今後は、投稿頻度を上げるとともに、#（ハッシュタグ）を有効に活用し、検索されやすくする工夫、フォトジェニックな写真を掲載する、他のSNSとの連携を図るなど様々な機会を通じて認知度を高めていきたい。

▼新聞で取り上げられたインフラモニターツアー

令和4．10．5　道(機)・読・朝・毎・日経・道通・他（　）朝・夕

インフラ観光 初のモデルツアー

開発局 神恵内、古平で開催

漁港見学やサケ三枚おろし

体験型 可能性探る

令和4．10．7　道(機)・読・朝・毎・日経・道通・他（　）朝・夕

つれづれ@ 岩内支局

住民の協力 観光振興の鍵

北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（室蘭開発建設部）

国土交通省

「縄文遺跡を活用した地域づくりの取組」

【地域の現状と課題】

地域資源の伝承

- 西胆振には、令和3年に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産（北黄金貝塚、入江・高砂貝塚）がある。

人口減少下の中での地域活性化

- 伊達市北黄金貝塚においては、地域のボランティアガイドが活動しているが、人材の高齢化が課題となっている。北黄金貝塚のボランティアガイドのメンバーは、約10名であるが、高齢化や他業務の関係で、恒常的にガイド活動に取り組めない方々が多く、人材の確保が難しい。

縄文遺跡を活用したビジネス

- 伊達市では、縄文講演会等は、多くの方々に参加してもらえるが、商売に縄文遺跡を活用しようという方々が少ない。

【取組に至る経緯】

- 室蘭開発建設部は、伊達市、洞爺湖町など13団体と連携し、「伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム」を構成し、地域の博物館や縄文遺跡等を活用した地域づくり活動を推進しており、室蘭開発建設部は、事務局の一員である。
- 京都で開催される国際博物館会議（ICOM）のポストカンファレンスを誘致したいと伊達市から相談があり、室蘭開発建設部が主体となって、2019年に「ICOM　KYOTO 2019　ポストカンファレンスin北海道」を伊達市、洞爺湖町、白老町、平取町にて開催した。
- 令和2年度は、コロナ禍により開催できなかったが、令和3年度は「縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会」を開催した。
- 開催の目的は、函館など各地域の活動状況等について情報共有を図るとともに、「本地域でできること、やりたいこと」を考えるきっかけづくりとすることとした。

▼テクニカル・ビジット（ICOM　KYOTO　2019　ポストカンファレンス　in 北海道）

伊達市北黄金貝塚の見学

だて歴史文化ミュージアムの見学

二風谷アイヌ文化博物館の見学

洞爺湖町入江貝塚の見学

伊達市の藍染め体験

有珠善光寺での茶道体験

▼国際シンポジウム（ICOM　KYOTO　2019　ポストカンファレンス　in 北海道）

国際シンポジウムにおけるパネルディスカッション

同時翻訳ブース

北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（室蘭開発建設部）

国土交通省

「縄文遺跡を活用した地域づくりの取組」

【具体的な取組内容】

室蘭開発建設部の関わり

- 室蘭開発建設部は、伊達市、洞爺湖町など13団体と連携し、「伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム」を構成し、地域の博物館や縄文遺跡等を活用した地域づくり活動を推進しており、室蘭開発建設部は、事務局の一員である。
- 令和3年度は、事務局である室蘭開発建設部と北海道中央バス（株）が主体で企画・運営し、「縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会」を開催した。
- 勉強会で得た意見をもとに、新たなイベントの企画・試行を実施した。

勉強会による地元意見の把握

- 勉強会は、伊達市、洞爺湖町周辺の地域づくり活動に興味のある方を対象に開催し、一般参加者など73名が参加した。
- 観光学が専門の札幌国際大学池ノ上教授の講演や、伊達市、洞爺湖町の学芸員、北海道中央バス（株）の事例紹介のほか、函館市において、縄文遺跡を活用した地域づくり活動に積極的に取り組んでいる方から活動事例の紹介を受けた。
- 「地域でこれから行いたいこと」や「他のまちと行いたいこと」を参加者で発表し、ディスカッションを行った。

勉強会の意見をきっかけとした活動

- 勉強会では、「室蘭市と森町をつなぐ森蘭航路を活用できないか」という意見があったことから、令和4年度は「森蘭航路を活用した現地研修」を企画した。
- 天候の関係で実施できなかったことから、代わりにバスによる現地研修等を実施予定である。

▼縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会の概要

項目	講師	内容
導入	池ノ上真一　氏 (札幌国際大学 観光学部教授) 	縄文遺跡を活かしたこれからの地域づくり
事例紹介1	永谷幸人　氏 (伊達市教育 委員会学芸員) 	伊達市における縄文遺跡を活用した地域づくりの取組
事例紹介2	角田隆志　氏 (洞爺湖町教育 委員会学芸員) 	洞爺湖町における縄文遺跡を活用した地域づくりの取組
事例紹介3	山田かおり　氏 (縄文DOHNAN プロジェクト代表) 	函館市における縄文遺跡を活用した地域づくり活動の事例
事例紹介4	嶋田浩彦　氏 (北海道中央バス株式会社 観光事業推進本部 シィービーツアーズ カンパニー統括マネージャー) 	観光面からの事例紹介として
ディスカッション	コーディネーター 池ノ上真一　氏 アドバイザー 山田かおり　氏	本地域でできること、やりたいこと

地域における関係者の声

- **若年層には、学校を巻き込んだ取組にすることで、縄文遺跡に関わってもらっている。**縄文遺跡では、小学生と高齢者の来訪は多いが、高校生から30～40代の来訪が少ないため、**子どもを呼び込むことで、親世代にも来てもらう狙いもあり、子ども向けのイベントを開催**している。例えば、伊達市では、**市内の小中学生を対象としたキッズフェスタを開催しており、親世代の方々にも来てもらえている。**
- **高校との連携では、縄文学習を実施**しており、縄文遺跡の中で高校生が活躍できる舞台を整える等、若者が参加しやすいような活動を進めている。
- 昨年の春先には、伊達市で、**世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産を所持している各市町の学芸員の方々に、各地域の自慢の出土品を持ち寄ってもらい、出土品を展示し、説明していただくという取組**を実施した。
- 道内の29市町で組織されている**縄文のまち連絡会**などと連携・協力する方法もあると思う。

北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（室蘭開発建設部）

国土交通省

「縄文遺跡を活用した地域づくりの取組」

【取組の効果】

勉強会による地元意見の把握

- 各地域の活動状況等について情報共有ができたほか、参加者によるディスカッションを行ったことで、地域の方々の意見を知る良い機会となった。

勉強会の意見をきっかけとした活動

- 勉強会での意見を参考に、今後の活動に繋げることができた。

【今後の方向性】

- 縄文遺跡は、伊達市と洞爺湖町以外の周辺地域でも発掘されているため、横とのつながり・連携が生まれることが望ましい。1か所だけでは盛り上がっていないところを一緒に進めることで、もっと大きなことができる。
- 縄文遺跡単体ではなく、白鳥大橋インフラツーリズム等と絡めることもできると考えており、周辺一体のツアーとして観光客の誘致ができれば望ましい。
- 地域の方々からは、イベントをやりたいという意見があったほか、ガイド育成の要請等の声があったため、引き続き支援していきたい。
- 将来的には、地元が主体となって各種活動を継続することが望ましい。

▼様々な媒体による情報発信

地域における関係者の声

- 勉強会では、他町の団体や民間の取組から、遺跡のガイドだけではなく、**グッズのアイデア出しや、SNSを活用した情報発信等、様々な側面から縄文と関わることができることを学び、「そのような縄文との関わり方があったのか」と刺激を受けた。**ボランティアガイドの方々にもフィードバックしたい。また、縄文に興味はあるが仕事の都合でガイドができない人などの受け皿として、様々な側面から縄文に関わることができる団体の仕組みをつくることが、団体の力にもなり、持続可能な取組になると感じた。
- 勉強会で行ったディスカッションのように、市民の方々には、縄文の活用方法や縄文との関わり方における自由な意見を述べてもらうことが必要で、その**市民の希望と遺跡の保全におけるバランスの調整が、学芸員の役割であり、多くの方々に楽しんでもらいつつ、保全することが重要だと思う。**
- 商品開発では、ボランティアガイド団体や、地元の養護学校が製造している縄文グッズ等を販売している。「せっかく遺跡に来たから、お土産を買おう」と考える人は多く、ニーズに応えていく必要があると思う。
- 縄文には商売利用が可能なコンテンツもあるという情報発信も進めたい。持続可能な取組にするため、民間がプレイヤーとなって、ビジネスに繋げる必要がある。
- **道内各地域には、その地域特有の歴史文化があるため、本取組は、他地域にも応用できると思う。例えば、道東・道北地域の沿岸部分には、過去の竪穴住居が地面に埋まりきらずにできた窪みが数百、数千と集まった遺跡があり、遺跡の横の繋がりを活かし、周辺地域と連携できると思う。**